

高次脳機能障害が よくなるということ

高次脳機能障害の当事者や家族、治療・支援する人にとって、障害がよくなることの意味をどのように理解すればよいのでしょうか

高次脳機能障害という言葉が一般に知られるようになりましたが、今でも高次脳機能障害の人たちが日常生活の中で、どのような困難に直面しているのかよく知られていません。

高次脳機能障害の人たちとその家族が、どのように障害を受け入れ、生活上の問題に対処し、自立した日常生活をおくればよいのかを米国の治療・リハビリを例に考えます。

とき 2012年2月4日(土) 午後1時～4時

定員 400人

参加費 1,000円(会場で)

ところ 浜離宮朝日ホール小ホール

東京都中央区築地5-3-2 朝日新聞社新館2階



- ・都営大江戸線築地市場駅下車すぐ
- ・JR新橋駅下車徒歩15分
- ・東京メトロ日比谷線東銀座駅下車徒歩10分

主催 朝日新聞厚生文化事業団
後援 NPO法人日本脳外傷友の会
NPO法人東京高次脳機能障害協議会

高次脳機能障害がよくなるということ

P R O G R A M P R O F I L E

13:00 13:30	『治療者が感じること』 青木重陽さん
13:30 14:15	『当事者と家族を感じること』 立神粧子さん
	休憩
14:30 16:00	シンポジウム 『高次脳機能障害の治療とその意味』 大橋正洋さん(コーディネーター) 小澤富士夫さん 立神粧子さん 青木重陽さん

オオハシ マサヒロ
大橋 正洋さん

●神奈川県リハビリテーション病院リハビリテーション局長/神奈川県リハビリテーション支援センター所長

1972年～73年 東京慈恵会医科大学脳外科教室助手
1975年～78年 米国・ワシントン大学リハビリテーション科在籍。2002年から現職。08年から東京慈恵会医科大学客員教授

オサワ フジオ
小澤 富士夫さん

●元ヤマハ株式会社・ロンドン&フランクフルトアトリエ室長/高次脳機能障害当事者

東京藝術大学音楽学部卒業。金管楽器の研究開発責任者として9年間ヨーロッパに赴任。帰国後、くも膜下出血により高次脳機能障害。2004～05年、ニューヨーク大学Rusk通院プログラムに参加し、症状が劇的に改善する。

お申し込み

参加希望のすべての方の①お名前(ふりがな)②〒・ご住所③TEL・FAX④ご職業を明記の上、下記までFAX、はがきのいずれかでお申し込みください。HPからもお申し込みいただけます。

※参加費(1000円)は、当日会場でお支払いいただけます。

お申し込み・お問い合わせ先

朝日新聞厚生文化事業団
「高次脳機能障害」係
〒104-8011東京都中央区築地5-3-2
TEL03-5540-7446 FAX03-5565-1643
<http://www.asahi-welfare.or.jp/>

タガミ ショウコ
立神 粧子さん

●フェリス女学院大学音楽芸術学科教授/「前頭葉機能不全その先の戦略～Rusk通院プログラムと神経心理ピラミッド」(医学書院)の著者/当事者の家族

東京藝術大学音楽学部卒業。シカゴ大大学院、南カリフォルニア大大学院より音楽博士号取得。ピアニスト・教育者の経験が評価され、Ruskより治療体験記の発表の承諾を受け執筆、出版した。

アオキ シゲハル
青木 重陽さん

●神奈川県リハビリテーション病院高次脳機能障害支援室長

1991年～2001千葉大医学部脳神経外科
2001年～2003東京慈恵医科大リハビリテーション講座。2004年～神奈川県リハビリテーション病院リハビリ科。2010年から現職